（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2024　年度（令和６年度）学校評価自己評価表

大門中学校区	校番　３９	福山市立旭丘小学校
	最終更新日	2024 年（令和６年）４月８日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
・子ども主体の活動を推進する。 ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。	・思考力・表現力に課題がある。 ・自尊感情が高まりつつあり、主体的に行動する姿が増えつつある。 ・運動やスポーツに進んで取り組む児童生徒が少ない。 ・地域行事やボランティア活動等に積極的に参加している。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	課題発見・解決力　思考力・判断力・表現力　主体性・積極性　共感力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	自己を認識し、自分の職業を選択し、表現できる力をもった児童生徒
中学校区として統一した取組等	・「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 ・レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取組をする。 ・運動に親しむ取組、体力向上の取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。

Ⅲ　自　校

ミッション
一人一人のよさを仲間と共に輝かせる子どもを育て、地域に誇れる学校を創る

学校教育目標
自ら考え　共に輝く

現　状
＜児童生徒＞ ・友達との対話を通して考えを深めたり、広げたりすることができている。 ・「相手のよさ・自分のよさを見付けている」児童 89.7% ・児童会が中心となり、児童全体が主体的に取り組む活動を計画、実践することを通して、自分で判断して行動する力が育ってきた。 ・年間を通して、体力向上のための自己目標をもって取り組む児童を育成する必要がある。 ＜授業＞ ・「進んで学習に取り組もうとしている」児童 92% ・研修や互いの授業参観を通して、教材研究のあり方や実践交流を行い、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。 ・子ども主語と教材主語を意識した教材研究を進めるとともに、児童の多様な考えを生かした授業づくりをさらに進める。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力
めざす子ども像	１・２年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して順序立てて表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
	３・４年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気づき、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	５・６年	自ら設定し課題について、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、説明したり、適切な方法で表現したりしている。	相手や場の状況に応じて、自分で目標をもち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。

研究	テーマ	基礎基本の学力を定着させ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～「学び直し」と「振り返り」に重点をあてて～
	内容等	既習事項や授業内での適応題を通しての「学び直し」を取り入れるとともに、学習過程を学習者自身に自覚させる「振り返り」を充実させる。
めざす授業の姿		・学び直しで自信をつけ、児童が「学びが楽しい」と思える授業 ・学習過程を振り返り、児童が「力が付いた」と実感できる授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭丘小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	基礎基本の学力を定着させ、論理的思考力・判断力・表現力を高める。	★	見直し	算数科の基礎基本の内容の定着を図る。	・旭活タイムや授業において、苦手な部分の学び直しや既習事項の定着を図る。 ・筋道立てて説明できるような、言葉の提示と習得を図る。	・全学年、単元末テストの平均８０点以上。 ・児童アンケートの「学習したことを自分の言葉で振り返ることができる」80%以上。									
2	自他を認め合い、自分で考え、行動できる子どもを育てる。	★	継続	自分で判断して実行する力（自己指導能力）を育成する。	・児童会や委員会活動において、児童全体が主体的に取り組める内容を計画し、実践する。 ・行事などを通して、児童が自ら決め、実行できるようにする。	・児童アンケートの「相手のよさ・自分のよさを見付けている」85%以上。 ・行事や特別活動などの取組において、自分で考えて行動できたか、振り返りを通しての見取り80%以上。									
1	運動に親しみ、主体的に体力を向上させる児童を育てる。		見直し	運動に親しみ、体力向上のための自己目標をもち取り組む児童を育成する。	・運動に親しむための場を設定する。 ・目標達成に向けて、振り返りシートを作成し、自己の取組について振り返り、主体的に改善を図る。 （通年）	・児童アンケート「場を活用し、運動に親しむことができた」児童の割合85%以上。 ・目標達成に向けて、振り返りシートを活用して、自身の課題設定を行い、取り組むことができたかの見とり80%以上。									

2	働き方改革の意義を理解し、教育の質の向上を図る。	★	継続	・業務内容を精選しながら質を高め業務を遂行するとともに、教職員の強みを生かした取組を進める。	・教職員一人一人が、子どもの主体の授業の実現に向けた自己課題を設定し、授業交流することで、授業改善を進める。	・授業づくりにおける自己課題に関わる取組が児童の成長につながっていると実感できる。肯定的評価90%以上。									
2	保護者・地域から信頼される地域とともにある学校をつくる。		継続	・地域とつながり、保護者からの満足度の高い教育活動を進める。	・教育活動や子ども・教職員の頑張りや成長を、学校だよりやHP等で、タイムリーに広く発信する。 ・地域の人・物・事を活用し、地域とのつながりを強化する。	・保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価を95%以上。 ・全学年、年間1回以上、地域の人・物・事を活用した取組を進める。									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。